

おうちで図書館、おりがみ通信、読書手帳

京都府 綾部市図書館

基本データ

所在地	綾部市新宮町 91 番地
職員数	5 人
うち司書数	4 人
蔵書数	89,028 冊
利用登録者数	18,012 人
年間貸出冊数	143,488 冊
(児童用図書貸出数 75,232 冊)	

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】子供の読書啓発、子供に対するサービスの充実、最新技術の導入、情報機器等の活用

【活動のねらい】

- (1) おうちで図書館
第2次綾部市子どもの読書活動推進計画に沿って、子どもたちに本のある環境づくりを進めるのが目的。普段自分では選ばないような意外な本にも出会う事ができ、その子の読書人生に影響を与えられたらという願いもねらいのひとつ。
- (2) おりがみ通信
綾部市は黒谷和紙の産地であり、子どもたちに地元の伝統工芸である和紙の素晴らしさを知ってもらうことを目的として、また、図書館に様々なおりがみ関係の資料を所蔵していることも知ってもらうために、子どもでも大人でも楽しむことができる「おりがみ」を選んだ。
- (3) 読書手帳
高齢の方で、自分が読んだ本が分からず図書館に自分が借りた本の履歴の問い合わせをしたり、読んだ本が分かるように本にしるしをつけたりするなどということが増えているため、自分が読んだ本の記録をするために実施。

取組・活動の概要

(1) おうちで図書館

- 平成31年度当初に企画立案し、年度当初の図書館協議会で諮り実施することになった。市内の未就学児、小学生、中学生、高校生を対象に、令和元年10月から開始。
- 年齢に合わせたお薦めの本を司書が選書し、お薬箱のように届ける。箱を家族が集まる場所に置いてもらい、自由に楽しく読書してもらう。自分の家に図書館があるような感じでいつでも好きな時に本を手にとってもらえるもの。



おうちで図書館

- 市内の小学校・中学校・高等学校等に案内チラシを配布し募集。申込み時に「おうちで図書館処方箋」に本の好みや希望を記入してもらい、それに合わせて図書館が選書、箱に入るだけの冊数を詰めて、約2か月間長期で貸し出す。

(2) おりがみ通信

- 来館者を対象に、平成6年3月から開始。
- 「子どもも大人も足を運びたくなるような取組を」と、平成6年から約25年にわたり、館内所蔵のおりがみの本を参考に毎月5人の全職員が持ち回りで展示用のおりがみ作品を作成し、展示している。
- 利用者も折れるように、展示作品の折図を作成し自由に持ち帰れるようにしている。
- 図書館の入口を入ってすぐの場所に展示することで、入ったときに楽しくなるように、また、月が変わったら次は何があるんだろうと次も来館したくなるような環境をつくっている。



おりがみ通信

(3) 読書手帳

- 綾部市図書館の登録者を対象に平成23年6月から開始。
- 自分が読んだ本の記録ができるように、書名、著者、出版社、利用日、評価をつけるための星5つの記載欄を作り、100冊分の記録ができるように冊子の形にしたものを作成。
- 専用の機械で記録用シールを打ち出すことができ、お薬手帳のような感じで印刷されたシールを貼ることで簡単に記録ができる。
- 表紙の色やデザインも徐々に増やし続け現在は38色のカラーバリエーションがある。



読書手帳

取組・活動の工夫や特徴

(1) おうちで図書館

- 置けばそのまま本棚になるような箱を作成。わくわく感を演出するために、内側に木目の用紙を貼ることにし、フタを開けると木箱のような本棚が現れるように作成。「おうちで図書館」というプレートも設置。「おうちで図書館取り扱い説明書」と読書手帳、貸出記録の印刷されたシールも付録として入っている。
- 事前に「おうちで図書館処方箋」を記入してもらうことで、それぞれの希望に合ったものを選

書できる。

(2) おりがみ通信

- 自館にある資料に掲載されている作品を組み合わせるなどして、季節感のあるものや、ストーリーのあるものなど、また平面だけでなく、立体のものなど様々なかたちの作品を作成している。利用者が折りたいと思ったら本が借りられるように、必ず自館に所蔵している資料をもとに作成。

(3) 読書手帳

- マンネリ化しないように、増刷する際には表紙のデザインを変えたり、新しい色を作ったりしている。記録した内容は個人情報になるので、個人の責任において保管すること、万一紛失や悪用された場合は図書館では一切責任を負わないという文言を記載している。

取組・活動の成果や今後の展望

(1) おうちで図書館

- テレビの横に置いているにもかかわらず、夕食後にテレビよりもおうちで図書館の本棚に子どもたちがかけよる姿が見られるという声を聞いている（貸出時に、利用後に記入する感想等記入するアンケート用紙を配布し、返却時に回収）。

(2) おりがみ通信

- 毎月作品が変わるので楽しみにされている方や、展示作品を参考にして自分も作品を作っておられる方もいる。図書館のホームページでも作品の写真等を掲載しているため、遠方にお住いの方で毎月どんなおりがみ作品ができるのか楽しみに見ているという方もおり、図書館のPRにもなっている。

(3) 読書手帳

- 読書手帳を持つことで、読んだ本が分からないという課題は解決した。また、読書の意欲がわき、本を読むことが増えたという声もある。
- 子どもたちにとっても読書手帳に記録が増えることが楽しみとなり、小さいころから使用している子は成長の記録にもなっている。
- 市外から来館された方からおもしろい取組と評価を得ている。